

彙報

五十嵐講師逝く

文學部社會學科講師五十嵐信氏は去る八月三十日郷里仙臺に於て長逝された。曩に米田庄太郎教授の講壇を退かれるや、一時我が社會學は前途暗きを思はしめたけれども、幸に五十嵐信氏を得て、再び新興發展の氣運に向ひつゝあつた。然るに突如今回の不幸を見るは誠に痛惜の至りである。告別式は八月三十一日仙臺に於て行はれ、九月二十三日文學部社會學讀書會が主催となつて、追悼會を京都市室町日本基督教會に於て營んだ。文學部教官四十餘名の參會あり、嚴かにしめやかに故人を追悼し、猶同日樂友會館に於て故人を偲ぶ爲めの晚餐會があつた。左に故講師の略歴及び業績を掲げる。

五十嵐信氏は明治三十三年四月山形縣鶴岡市に五十嵐正氏を父として生れた。五男四女の長男である。正氏は基督教牧師であり、現に仙臺東北學院中等部の部長である。信氏は此の基督教の家庭に人となり、東北學院中等部を経て、大正七年仙臺第二高等學校一部甲類に入學し、常に優秀なる成績を保つて大正十年三月卒業するや、社會學專攻の志を抱いて京都帝國大學文學部哲學科に入學し、米田庄太郎教授の下にあつて斯學の研鑽を進め、大正十三年三月「社會意識の本質及びその作用に就いて」を卒業論文として文學士となり、更に「純正社會學」を研究題目として大學院に入つた。當時健康甚だ衰え肋膜炎を病んだ。十三年十月大谷大學囑託教授となり社會學を講ずる傍、同大學豫科に論理及び心理を教へた。昭和二年四月京都帝國大學文學部社會學科講師となつて現在に及んだ。明年三月は獨逸留學に内定し、本年七月京大醫學部の體格検査を受けたる所、喉頭結核と診斷され、八月郷里仙臺に歸つて靜養し、一時經過良好であつたが、同月下旬病俄かに革まつて三十日午前五時遂に永眠した。享年二十九歳であつた。生前發表した業績を掲げれば左の如くである。

社會的分化論(附、社會學の問題)(ゲオルヒ・ジンメル)岩波書店發行

カントアフィの社會學に於ける二三の問題 哲學研究第一

一四號第一一五號第一一七號

フィアカントとフオン・ウィーゼの社會學概念の比較 社

會科學第一卷第五號

社會學の基本範疇としての社會的關係に就いて、

思想第

七十二號

獨逸社會學

大思想エンサイクロペデア—三社會學

カントに於ける社會主義との結合點(フォルレンダー)

佛

教研究第六卷第三號第四號

新批判主義の社會哲學(フォルレンダー)

佛教研究第七卷

第四號、第八卷第一號第二號

シンメルが精神史に對して持つ意義(アドラー)

思想第五

一號

社會學の本質(トエンニース)

全人第一卷第二號第四號

(以上)

五十嵐講師を悼む

白井 二尙

突如として夭折せるこの畏友について、悠揚追憶に耽り、またその學的發展を辿つて、人及び學者としての君を詳細に述べるには餘りに未だ日が浅い。今はたゞ思ひ出づる事どもを卒爾に綴つて、哀悼の心の一端を表すに止める。

今茲に五十嵐講師を偲ぶ可く餘りにも淋しい追悼の筆を執るやうにならうとは一ヶ月以前まで全

く夢想だになかつた所である。友人としての君を失ふことは痛心の極みであるが、社會學者としての君の死を思ふことは更に大なる悲痛である。君の社會學界に於ける活動は、短期間なるにもかゝらず目覺しいものであつたけれども、それは君としては未だ僅かに準備的一步に過ぎず、専ら自家獨自の思想を展開せる論策は殆んど發表する事なくして逝つた事は、君としても特に遺憾に堪へなかつた事と思ふ。社會學は、複雑にして實生活に關係する事緊密なる現象を扱ふといふ事情に制せられ、學としての成立最も遅れると共に、各國に於て各々國情や學問の傳統的精神によつて頗る方向を異にし、その對象に於て又その方法に於て、互ひに極めて相違して居る。君が發表した論文翻譯を見れば、悉く直接獨逸社會學に關係して居るが、君は決して専ら只獨逸社會學の新らしい展開進行のみに追従するが如きことなく、むしろ

よく他の社會學の傾向をも採つて之を自己の根本精神の中に加へて居たのである。君は社會學攻究の出發點をジンメルに執り、彼の社會學によつて自己將來の研究の基礎を築かんとした。斯る理由より、君は先づ、ジンメルがその社會學的根柢思想を組織的に論述せる最初の書、社會分化論を翻譯した。ジンメルが後年深く廣く展開した社會學の主要なる思想は、己に此處に大抵述べられて居るのみならず、彼の生の哲學もその萌芽を此處に藏して居るが故に、本書は社會學のみならず、如何なる方面に於ける彼の思想の發展を究める上にも缺く可らざるものである。而してジンメルが分化論に現はされた社會學方法論に精練を加へ自己の社會學の概念を大成せるものと見られて居り、諸家の注意を引いて、廣い影響を及ぼした論文、「社會學の問題」を併せ譯した君は、更らに進んで彼の名著「社會學」の翻譯をもなす可く企圖しつゝ、

あつたが、之に着手す可き時日の假されなかつたのは我が社會學界にとつて大なる損失であると言はねばならない。學的良心鋭き君は分化論の翻譯に於ても、強調の置き方、ニュアンスの表現等について未だ意に滿たざる箇所の見出されるや、之を改めて、より完全なるものたらしめんと志を持つて居たが、それも果す機會なくして去つたのであつた。

斯くジンメルを研究すると共に、他方またその後繼者と目せられる人によつてなされたる彼の思想の發展を跡づける事に於て、學的愉快を汲みつゝあつた。フイーアカントの「社會學」の翻譯は分化論翻譯の以前に完成してゐながら、或る事情の爲めに出版に至らぬのは、私共の齊しく遺憾に堪へない所であるが、君が此の形式社會學の一方の代表者に加へた批評、及び他方の代表者ウィーゼの社會學論に對する批評は、君が社會學に於て如

何なる位置に立つかを窺はしめる。君の位置は師米田博士のそれと一致し、社會をして社會たらしめる要素的事實を對象とする純正社會學と共に、之を中心としつゝ社會の各方面に關する知識を一體系に組織せんとする綜合社會學の建設を主張するものであつて、後者を否定せんとするものが諸種の文化内容の實質的知識を自ら純正社會學に混入し、爲めにその純粹性整合性を亂すを難じて居る。然らば純正社會學の對象如何と云へば、社會は相互作用を營みつゝある諸個人が、一定の見地から見て一團體を成す關係にありと認められるものであつて、此の外にまた此の上に社會なる全體が別に存在する事無しとして、純正社會學の考察の中心對象を、諸個人が互ひに及ぼし合ふ影響、或は互に執り合ふ態度となし、社會學は社會の學に非ずして社會的相互作用の學であると云つて居る。同時にまた或場合には、斯く個人を單位とせず

して社會を單位として考察する事が可能又必要であることを附加して居るが、個人の間に行はれる相互作用がそれ等の個人を結びつけて居る事によつて國家・民族・種族協會の如きものも生起存続するに外ならず、先づ相互作用又は相互關係を明かにして後社會團體の考察に進む可しとなし、社會を全體とし、全體性に於てのみ理解せんとする事に反對するウィーゼに讃同し、社會又は社會關係の個人に對する優位を認め、之を全體の所與として之より出發せんとする事が、全體を實體化する傾きあるの故を以て之を排斥する所に、關係學派の原子論的觀方が鋭く表れて居る。而して相互作用又は相互關係を究めんとするに當つては、之を自然現象の一部として見る立場と之を文化の世界に歸屬せしめて考察せんとする立場とを分ち、兩者は共に正當と認めらる可きものなると共に、兩者を明確に區分しその混合を避くべきことを力

説する。而して兩者共に社會を個人の心理的作用にもどづいて解釋せんとするが、後者即ち文化科學としての社會學は、意味價值に結合した意識を有する個人を扱ふものであつて、之はウエーバーの領解社會學の方向に進む可しとし、前者即ち自然科學としての社會學は、この心理作用を自然過程と見做し、心理學的法則等によつて社會現象を説明せんとするものであるとする。同時に又社會現象の本質觀照を企てる現象學的試みを右の兩者の外に置き、社會哲學の領域内に封することによつて、科學としての社會學の純粹性を確保せんとすることに努める。而してまた斯くて立てられる純正社會學は、他の諸社會科學に對して基本的位置に立つ一般的科學であるとする。

以上によつて明かなる如く君はウエーゼを以てジンメルのもも忠實なる後繼者なりとして讃同する所が多い。而して君はまたウエーゼに影響大な

る米國社會學に對して同情と同感を持つ事少くなかつた。之君が早くよりギッディングス・ロツス等を研究する事深く、此等諸家の方法精神の意義を認め尊重する事を忘れざるによると思はれる。斯くて君は、文化社會學を認めつゝも、根柢に於ける同情と興味を主として經驗的自然科學的心理的社會學、君の所謂從來の社會學に置いて常に之の尊重と同情とを口にして居たが、之若い日本の社會學徒が多く獨逸社會學の精神科學的哲學的方向に赴くのに對して特異なる位置を占めて居たと云はねばならぬ。乍併他方精神科學的社會學もよく究め、意味把握の立場よりする社會關係も尊重し自ら之を試みもした。

ウエーゼが果してジンメルの実行せる所の精神を正當に繼承發展せしめたと認めることが出来るか、ウエーバーの理念型の構成は、果して本質觀照と交渉接觸する所なきか、といふが如き事柄に

就ては、君が將來精神科學としての社會學の建設に没頭する時必ずや問題となつたであらうと思ふが、他方又全體を重んずる人々から「個人と社會とは相互に規定し合ふ相關關係に立つ。個人から出發し、これの結合分離より社會を理解せんとするは、未だ社會の外部的見方たるを免れない。社會そのものは斯る原子論的立場からは理解されない」との批評を受けつゝあるジンメルに始まつた社會學を研め盡くした君が今や、全體としての社會のみを偏重するとの評あり、哲學的傾向を基礎とするシュバンを講じ、全體主義に沈潜し行くに従つて此の相異する立場を如何に結合調和し行くかも興味ある當面の問題であつたが、その解答も遂に示されることなくして終つた。

君はまた決して純正社會學の領域にのみ閉ぢ籠つては居なかつた。凡て現代社會に生きる者には何人にとつても切實なる關心事であるマルクス主

義は、亦早くより君の注目する所であつた。乍併君の之に對する態度はひたむきな信奉のそれではなくして、之に對して十分の理解を持ち、その基礎を批判せんとするものであつた。資本論を讀み、クノーの書を講ずると共に、他方新カント派の社會主義觀を究めつゝあつた君の此の方面に於ける研究が、その一部分すら公けにされなかつたことは遺憾に堪へない。たゞ、フオルレンダーの「カントとマルクス」は君によつて翻譯が略々完成されて居る筈故、近く出版の運びに至るであらうと思ふ。

マルクスと共に君は又ルッターに心を惹かれ、將來此の兩者を併せ研究せんことは君の念願であつた。基督教の家庭に人となつた君は嘗て「自分は幼時よりの宗教的感化の影響などの故に、後にはやがて宗教社會學に入つて行くやうになり相な氣がする」と漏らしたこともある。ルッターに關する文獻も集めて居たけれども、未だ之の研究に

は餘り深く立入る暇も無かつた様である。

明年三月は君も獨逸留學の事に内定して居り、從つて滯獨二年の收穫を以て、閑却され勝ちな自然科學的心理學的社會學への同情者が、之と並べて新興の精神科學的社會學、又社會哲學を展開し、又之等に排するに理解あり同情あるマルクス主義の批判、深き體驗の浸透せる宗教社會學等を以てする可き日の壯觀を想望し、斯る日の速かに來らんことを吾等は齊しく翹首期待して居たのであるが、今やそれも空しい過去の望みと化して了つたのは誠に日本社會學界の痛恨事である。

只に學に於て優れて居るのみならず、君はまた教授指導に於て特殊の才能を有つてゐた。教場に於てまた研究の會合に於ても、此の方面に、あの若さに似はぬ程の老練さを示して居たのは常に、敬服に堪へない所であつた。よき學者にして同時によき教師なる君は目下の京大社會學科にとつては

二重の意味に於て缺く可らざる人であつた。京大は誠に償ふ可らざる損失を君の死によつて蒙つたと云はなければならぬ。

專攻の學問に於て廣く豊かであつた君は、また社會百般の事柄に關し、また日常生活の諸事項に關して、稀に見る豊かな知識の所有者であつた。政治宗教藝術等、一としてよく論ぜざるはなく、論じて詳かならざるはなかつた。他方又家庭の人としては自ら家計を整へ料理にも通じ、家具の如きに至る迄自ら選擇注文し配置し、時に自ら製圖加工するといふ風であつたのは、學者としてはむしろ珍らしいと云ふ可く、何人に對してもその百科全書的知識をよく相手に應ずる様に用ひて、親切且つ熱心に話を交へる故、老幼男女の別なく君の前に出る者は、自ら寛いだ自由な心持ちになつて、自ら流れて行く談話の中に時の經つのも忘れるといふ風であつた。嘗て「自分の以前の志望は、筆

と舌とを以て、社會を教化することであつた」と語つたことが、あるが君の如きは、斯る方面に入つても必ず大いに爲す所があつたであらうと確信する。

病氣についても研究を積んでゐた君は、症狀病原療法等に關して審しい知識を持ち、自ら自分の胸部に打診を試みれば、健否が分るとさへ云つて居た程である。その君が突如として他界するに至つたのは恐らく病に氣附かざりしに非ず、之を知つて注意を拂ひつゝ、たい之を表にせず平靜と元氣とを保つて居たのではあるまいかと思はれる位である。若さとその希望の故に、又學に對する不可抗的な熱意の故に、更に幼時より養はれた基督教的责任感の故に病を押して勉學を續け、職に忠實ならんとして遂に世を早くしたのであらう。病勢已に進んでゐた六月の下旬、聲の十分出ざるが爲めに、教壇を降り、席を聴講者と並べて講義を續けた如きは、むしろ悲壯と云ふ可く、君の精

勵をよく表はして居ると思ふ。夏の休みになれば勉強を廢して専ら靜養する覺悟で、種々の豫定も立てゝ居たが、悲しい哉それを實行するだけの健康すら既に無かつたのであつた。そして病頓に重く秋をも待ちあへずして逝つたのである。學生時代からの苦闘操守が漸く酬いられ、輝かしい前途が曙の如くに開け來つた時に、忽ち之を永久に閉ざし、無限の可能性を遂に可能性として止めて、此の世に別れ行かんとする君の胸中の悲痛は如何ばかりであつたらうか。

乍併他方、幼時より基督教の信仰の中に育つた君は、靈の救済の確信の故に、神への絶對的依屬の感情の中に、一種平和平靜の心をもつて神の御許に歸つであらう。けれどもルッターさへも、その愛する娘を失つた時に、*“Ich bin ja fröhlich im Geist, aber nach dem Fleisch bin ich sehr traurig. Ein Wunderding ist's wissen, dass sie gewiss in*

Frieden und ihr wohl ist und doch noch so traurig sein.”と云つた。君の靈が地上の制約を脱して、全き自由の中に生き、益々活動を續けて行きつゝある事を説き教へられるとも、長からざりし君の一生を背景として、あの人なつかしい君の風貌をまながひに浮べ、君の腦裡に描かれた諸々の計畫や君の胸中に去來した幾多の憂悶、哀愁、愉快また諦念を想ふ時、而して、此の地上に君と相見相語ることを最早や永久になしと思ふ時は、かの「悲しきルッター」の如く誠に一種剗切なる悲寥の心に堪へざるものなきを得ない。謹んで、君が靈にいよ／＼御榮へのあらんことを衷心より祈りつゝ筆を擱く。

Gestalttheorie 論文集について

前回心理學演習用プリントとして印刷した『ゲシュタルト學說論集』の續きとして、今回左の三論文を集めて印

刷した。

I. Kurt Koffka, Perception : An Introduction to the Gestalttheorie.

(Psychological Bulletin, 1922 所載)

右は少し年代が古いものですが、英語國民に本學說の要旨を理解させるために起稿したもので、手引として見た概觀のために格好のものであります、かつて久保良英氏が「形態心理學序説」そして發表されたのは専らこれに據られたものであります。

II. Max Wertheimer, Untersuchungen zur Lehre von der Gestalt. II

(Psychologische Forschung, Bd. IV 所載)

これは前回の續きで模範的に明晰な叙述を以て本學說の骨子を説いた最も重要な文獻の一つであります。従つて種々の論文に引用されてゐます。本學說を知らうとする人の精讀を要するものであります。

III. Wolfgang Köhler, zur Gestalttheorie.

(Scientia, 1928 所載)

これは同誌上に三號に亙つて連載された Kignans の評論 *La teoria della forma della nuova scuola psicologica tedesca contrapposto all' associazionism della scuola psicologica inglese*. に對する辯駁で “Gestalt” と “sinvoll” のやうな語に對する曲解を釋明したり、在來の哲學上の考へ方に對する *Stellungnahme* をしたりしてゐる點で、參考になると思はれる最近の論文であります。

○御希望の方は左記へ御申越下さい。

○一部約金貳圓五拾錢。

九州帝國大學法文學部心理學教室

佐久間 鼎

寄贈圖書

唯物史觀と現代の意識

現代文化の哲人としてのカント

三木清著
岩波書店發行

リツケルト著
大江清一譯
理想社出版部發行

ライプニッツ單子論

(哲學古典叢書第五編)

追て次號以下に機を得て三書を紹介批評すべし。

ライプニッツ著
河野與一譯
岩波書店發行

寄贈雜誌新聞

(昭和三年八月—九月)

哲學雜誌	昭和三年八月號	四九八號
哲學	同 八月號	四號
丁西倫理學講演集	同 九月號	三一—號
哲學青年	同 九月號	一ノ十一號
教育心理研究	同 九月號	三ノ九號
斯 文	同 九月號	十ノ九號
生理學研究	同 九月號	五ノ九號
社會學徒	同 九月號	二ノ九號
學校教育	同 九月號	一八三號
全 人	同 九月號	二六號
信濃教育	同 九月號	五〇三號
静岡縣教育	同 八月號	三七六號
奈良縣教育	同 八月號	一八五號
願 慧	同 九月號	七ノ九號
帝國大學新聞	昭和三年九月十日	